

◎国重要文化財・吉福家住宅庭の草刈り作業終了する！

今月19日(木)午後から生涯学習課市史編さん室職員(田村・由岐・吉本)と、土佐清水市郷土史同好会会員であしずり遍路道保存会の弘田之彦会長が国重要文化財・吉福家住宅庭の草刈り作業を実施した。弘田会長は、これまで遍路道をはじめとして文化財保存になにかとご尽力いただいております、今回もボランティアでの参加である。

本年度の吉福家住宅の保護活動は、6月22日に建物主屋と納屋部分のシロアリ侵入部分にベイト工法による駆除作業(株式会社イチケン清水代理店・仮谷文治氏により実施)、6月26日除草作業(市史編さん室田村とあしずり遍路道保存会・弘田之彦会長による)、これらに引き続き3回目の保護活動になった。

弘田之彦会長には、繁茂する葛のかずらを駆逐していただいた。弘田会長は元JAの職員であり、雑草の駆逐には専門的な知識がある方だ。また、シロアリの誘う温床であった大量の庭木も所有者の許可を受け、チェーンソーにて細目に伐採を行った。

吉福家住宅は、近代の建築物でありながら、近世鼻前廻船商人の繁栄の流れを留める現存する最後の歴史的建築物である。この歴史の伝統を守り、次代へつなげていくことは市民の責務であると思う。1月24日には土佐史談会が23名来市し、郷土歴史散歩という企画でここ吉福家住宅を見学する予定である。



主屋と納屋の間の部分 草刈り前⇒草刈り後

旧大津小学校史資料の整理と目録づくり

「高知県学校資料を考える会（代表・目良裕昭）」「高知県立高知城歴史博物館（館長・渡部淳）」「高知県ミュージアムネットワーク（会長・筒井秀一）」による旧大津小学校史資料整理と目録づくりが、今月 20～21 日にかけて中浜小学校 2 階にて実施され、『学校日誌』の写真撮影や目録作成が精力的に行われた。この作業にご尽力していただいたのは、次の方々である。

【11 月 20 日・金曜日】参加者

渡部 淳（高知県立高知城歴史博物館長）、高木翔太（高知県立高知城歴史博物館学芸員）

筒井聡史（高知県立高知城歴史博物館企画員）、小幡 尚（高知大学人文学部教授）

楠瀬慶太（高知県学校資料を考える会事務局長・高知新聞学芸部記者）

渡邊雄哉（高知大学農林海洋科学部 2 年）

武藤 清（土佐清水市郷土史同会会長・市文化財審議委員）

【11 月 21 日・土曜日】

渡部 淳（高知県立高知城歴史博物館長）、高木翔太（高知県立高知城歴史博物館学芸員）

筒井聡史（高知県立高知城歴史博物館企画員）、渡邊雄哉（高知大学学生）

目良裕昭（高知県学校資料を考える会会長）

楠瀬慶太（高知県学校資料を考える会事務局長・高知新聞学芸部記者）

筒井秀一（高知県ミュージアムネットワーク会長、高知市立自由民権記念館館長）

望月良親（高知大学教育学部講師・日本史専門）

下村海登（高知大学教育学研究科学生・修士課程 2 年）



高知城歴史博物館渡部館長・自由民権記念館筒井館長・宿毛歴史館矢木館長が揃う。矢木館長は、資料整理と目録づくりの見学に中浜小学校を訪問したものである。宿毛市も学校統合を前に学校史資料の整理を考えているのだろう。

「市史執筆のブレイクタイム(13)」

大津小『叶崎便り』の発刊

市史編集委員長 田村 公利

昭和 43 年 6 月 1 日、『叶崎便り第 1 号』が発刊された。これは教職最後の赴任地を母校・大津小学校に希望した上岡茂晴校長の発案である。彼は児童が激減する故郷の実情を見て、なんとかこの事態を打開したいとの思いがあった。このことは、後の『叶崎便り第 41 号』にて、当時教頭職にあった横山進一先生が証言している。こうして

『叶崎便り』は、学校が発信する地域を含めた応援誌として平成4年7月20日、通算計74号まで24年間連綿と継続発行されたのである。

その特徴は、なんといっても学校を軸とし、地域はもとより、地域外に転居した方々にも発信がなされたことである。地域を転居した方々は、東京都・神奈川県・大阪府・京都府・兵庫県など全国に広がった。この中には、京都在住の人権派弁護士・小林為太郎がいた。タレントの上岡龍太郎氏のご尊父である。

彼は、大津小学校在学中、家計が厳しく、牛乳配達や新聞配達などのアルバイトをしながら勉強に励んだ。城北中学校・高知高校を経て、京都大学大学院を修了し、弁護士になった苦労人である。昭和41年(1966)から毎年児童書や一般書などを大津小学校に寄贈し、その冊数は実に1000冊を超えるに至った。そこで学校では「小林文庫」と命名した。このような経緯から大津小学校は、小規模校でありながらその蔵書の数は多かった。そこで急遽、講堂内に衝立で仕切り、図書室の代用とした。

今回の大津小学校史資料の中には、当然のことながらこの「小林文庫」の図書もここには含まれる。旧中浜小学校に集積された学校史資料の点数はざっと4,000点にのぼる。図書資料以外の生物や植物の標本なども含まれ、中には現在ではかなり珍しい標本もある。なお、この標本の分析は、高知県学校資料を考える会の手を経て、高知大学理工学部生物科学科遠藤広光教授(魚類分類学専門)と高知大学教育学部伊谷行教授(海洋生物学専門)に依頼し、その分析を進めている。

本年度末、2月初旬に公民館サークル文化展において、高知県立高知城博物館や高知県ミュージアムネットワークなどと連携し、中央公民館にて「大津小学校史資料展」の企画展示を盛大に開催したいと計画している。もちろん、コロナウイルスの状況を見極めながらではあるが。もし、開催が可能であれば、県外出身者も含め地域の方々に広く周知しながら広報を展開していきたいと考えている。

